

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4471200180		
法人名	医療法人 土生医院		
事業所名	グループホーム あじさい		
所在地	大分県豊後大野市三重町内田六反2541番地		
自己評価作成日	平成22年8月18日	評価結果市町村受理日	平成23年12月16日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	平成23年9月6日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・運営母体が医療法人なので高齢者に必要な医療が密着しています。 ・当施設は高台の適度の自然環境の中、文教地区にあります。 ・人の流れもあり、四季折々の景観の変化の中で季節感をあじわう穏やかな生活が出来ます。 ・家庭的な手作りの食事を提供するよう努め、又個別に対応した工夫をしている(キザミ食等)。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・職員が利用者のできることを把握し、発揮できるよう支援している。 ・季節の食材を使った、彩や風味を大切にした、職員手作りの料理で、楽しく、おいしく、家庭的な雰囲気です。 ・職員間の信頼関係があり、お互いを尊重し合って、優しい言葉使いに心掛けている。 ・高台の中学校や看護学校、住宅などが隣接した、自然豊かな土地柄で、敷地も広く庭先で憩うこともできる環境である。地域自治会の理解もある。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印		項目		取り組みの成果 該当する項目に印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の		63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と	
		2. 利用者の2/3くらい				2. 家族の2/3くらい	
		3. 利用者の1/3くらい				3. 家族の1/3くらい	
		4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない	
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある		64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように	
		2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度	
		3. たまにある				3. たまに	
		4. ほとんどない				4. ほとんどない	
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が		65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている	
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている	
		3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない	
		4. ほとんどいない				4. 全くいない	
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が		66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が	
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが	
		3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどいない	
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が		67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が	
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが	
		3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどいない	
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が		68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が	
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが	
		3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない	
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が					
		2. 利用者の2/3くらいが					
		3. 利用者の1/3くらいが					
		4. ほとんどいない					

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者様がその人らしく生活できる理念をミーティングで全職員が振り返る時間を設け日々のケアが適切か検討している。ホール、事務所などに理念を貼り、日々の業務の中で意識できるような環境作りをしている	全職員で振り返る時間を設けて、理念を共有し、ケアに反映するよう話し合っている。スタッフルームなどの見やすい場所に理念を掲示し、いつでも認識できるようにしている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入。地域のお祭り、秋の文化祭には、参加する予定である。市主催の「おおのふれ愛がんばっ展」にも作品を展示し又、保育園児が年数回訪問してくれるなど地域との交流がある	運営推進会議に自治会長が出席することで、地域との交流が展開している。自治会に加入し、回覧により地域の行事も身近なものとなっている。地区内の保育園児が定期的に訪問し、花を持ってきてくれるなど、触れ合いがみられる。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	管理者は、事業所での実践内容を踏まえた研修に参加している。藤華医療技術専門学校学生を平成23年6月13日から7月5日まで実習の受け入れを行った。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進委員会会議は隔月で開催。参加者は事業所の責任者、在宅保健師、市の職員、区長、家族の代表などが出席。会議の内容で地震対策の研修発表を行うと区長より地域の集会時に使いたいと意見ある。	自治会長が出席するようになり、地域の情報や積極的な意見が出されている。これにより、地域との交流のきっかけが出来つつある。市の職員も出席して課題解決やアドバイスを行っている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	年に数回、介護サービス事業所を対象にした市主催の研修会に積極的に参加しサービスの向上につなげている。市の窓口で介護保険更新手続き、おむつ券の申請などで市職員との意見交換を行い連携を深めている。	市役所主催の会議に参加して、新しい情報やサービス向上の話し合いをしている。困難ケースについても担当者や相談をして解決に取り組んでいる。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束マニュアルを作成し日々の業務を振り返り利用者様に抑圧感を与えていないか点検している。	定期的な会議の中で身体拘束について研修をし、個別の対応についても話し合っている。また、ケアの振り返りにより適切な対応を考えている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修で学んだ高齢者虐待防止法を定例会、ミーティングなどで報告し理解を深め全職員で虐待防止法に努めている。特に介護の中で虐待にあたるものは何か、具体的に説明している。		

事業者名：グループホームあじさい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在までに該当事例はないが、必要時対応できる様に研修を行っている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、契約書を読みながら内容の説明や利用料金医療連携体制、ケアの取り組み等説明し家族の希望、不安など尋ね納得がいくよう説明し同意を得るようにしている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	6、12月に家族会を実施し施設長を交えて家族の意見、要望を承っており即答については施設長より説明を行い出来ないものに関しては情報を収集し来居時にお話している。	家族会を年に2回開催して、意見をもらっている。またアンケートから課題をくみ取っている。面会時に気軽に職員と話ができる関係もできており、出された意見をもとに、職員は課題解決に向けて話し合っている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見、要望はミーティング、定例会、日々の申し送り時に聞くようにしている。又申し送りノートを活用しコミュニケーション、運営に取り入れている。	定期的な会議で毎月意見を出し合っている。個別の対応についても、感じたことを発言し、ケアに反映されている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ヘルパー取得の勉強会など資格取得に向けた支援をしている。休憩時間にゆっくり休めて、気分転換できるよう畳張りの休憩室を確保している。又時間を見て水分補給をするよう声掛けをしている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修計画を作成し全職員が年間積極的に受講できるよう働きかけている。又研修報告を通じ知識の浸透に努め、新人職員にはマンツーマンの体制をとり、利用者のケア、関わり方の指導を丁寧に実施している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム管理者研修にて防災に関する講習を受け定例会、家族会、運営推進委員会において発表し又新人研修実施の要望をお願いした。		

事業者名：グループホームあじさい

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメント表を用いて情報収集している事前の情報进行分析し職員間で情報を共有する。家族に生活歴調査表に記入して頂いた情報からも分析し共有する。本人から上にならない位置で対話をするよう心がけている	
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に、これまでの家族の苦勞、経緯について聞く機会を持つ様にしている。又不安に思っている事を聞きサービスにつなげていける様に話し合いをしている。	
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時家族、本人の思いを聞き、不安の除去に努めているが、場合によっては他の施設、ケアマネジャーなどのサービスにつなげるなどの対応をしている。	
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者は人生の先輩であることを理念として共有しており、お膳の並べ方、料理など教えてもらう事も多く、又自分ができる事、洗濯たみ、新聞折等を手伝って頂くことで共に支えあえる関係づくりに留意している。	
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時、生活の様子を伝え一緒にお茶を飲んだり季節の衣替え、受診の依頼、行事等への参加など伝え協力をお願いしている。家族から本人への贈り物が届いた際には、電話をいれ話ができるよう努めている。	
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族会でふるさと訪問について説明しH23、3月生家に帰省し兄弟と会食を楽しまれる。又5月町内散策や神社参拝する。神仏に対する思いは予想外に深く今後も支援を継続していく。	家族へ説明を行い、故郷訪問や、懐かしい場所や人とのつながりを保てるような支援をしている。今までは計画書に添っての活動であったが、今後は気軽に車でご近所に出かけるなど、柔軟な対応が可能となった。
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事、おやつ、リハビリ体操時に座る位置を人間関係に考慮し、会話が楽しく出きるように心がけている。心身の状態や気分が日々変化する事もあるので注意深く見守り、必要に応じて個別に対応をしている。	

事業者名：グループホームあじさい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後家族に電話入れ近況を伺ったり、病院で亡くなられた方の葬儀に参列しお悔やみを申し上げている。又ホームで行うコンサートや講演会にお誘いし参加して頂いている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中で現在何がしたいのか把握に努め家族に連絡し買物の依頼や衣類の補充をお願いしている。意思疎通が困難な方には、ご家族や関係者から情報を得るようにしている。	今までのアセスメントから、より詳しい情報を収集するよう試みている。各自が現状において求めていることや、どうしたいのかを把握し、職員で共有している。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時、家族介護状況表に生活歴や馴染みの暮らし方など記入して頂いている。本人自身の語りや家族、親戚等の訪問時などに少しずつ把握に努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝のバイタル測定、日中の食事、水分摂取量の確認をし摂取量の少ない利用者様には、パン、菓子、コーヒ牛乳、ジュースなどで対応している生活リズムや体調に合わせて声掛けし毎日の暮らしを支援している。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族に日頃から3ヶ月に1度定期的にモニタリングを実施、状態変化時にも同様にモニタリングをし、プランの継続・変更・追加等をしている	毎日の記録に、ケアプランに沿ったケアを実施したか記入し、家族や本人にモニタリングを行い、職員間で話合うことで、状況に応じたプラン作成をしている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常生活記録(食事量、水分量、排泄、身体状況)本人の言葉、エピソード等をケース記録にきずきや状態変化を記録している。朝、昼、夕の申し送り時に1日のケアに活かすように職員間で情報を共有している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	当該医療法人主治医による月2回の在宅総合診療を行っている。又状況に応じて通院、送迎等必要に応じて支援している。本人の訴え希望を取り入れ美容院への付き添いを家族に協力をお願いしている。		

事業者名：グループホームあじさい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	警察、民生委員、消防署と連携を取り協力を依頼している。運営推進委員会に地域の区長が参加するようになり周辺情報や訪問理美容、オムツ券の活用など情報を家族にお伝えしている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に主治医が継続している場合を除き、当医療法人で在宅総合診療を月2回行っている。急変時や体調不良時は随時対応している。	長年馴染んだ医療機関での受診が可能である。法人のドクターによる定期的な在宅診療も随時病状が把握され、状態に変化があった場合もすぐに連絡を取り、対応されている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置しており、常に利用者の健康管理、状態変化に応じた支援を行っている。日常の中で些細な事でも看護師に報告し適切な医療につなげている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院は当医院経由で行う為医療機関との早期退院に向け、随時当医院と連携を取りながら、頻繁に職員が見舞うようにし状態経過の情報収集に努め、家族とも情報交換しながら退院支援を行っている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時より当医院医師が家族と面談し、本人や家族の意思を確認している。その方針に従い必要な時には、当医院医師、職員が連携をとり対処している。	入居時より重度化に向けた話し合いを行い、書面にて確認もしている。状態に応じて家族や本人と話し合い、医師・看護師・職員で連携して、適した医療が受けられるよう支援している。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ミーティングで吸引器の操作の指導を受け(口腔内の残差物の除去)、緊急時に対応できるようにしている。看護師の指導のもと強制しないように両下肢の屈曲、屈伸運動の機能訓練を行っている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昨年家族間緊急連絡網作成しH22年11月、H23年5月の2回緊急連絡網を使い実施した。H23年8月8日施設内での防火避難訓練を行う。12月頃消防署対応の防火避難訓練を行う予定。	年2回の訓練が実施され、夜間想定も行っている。緊急時に、家族に連絡ができるよう連絡網も作成しており、隣接の施設と連携が可能な体制がある。備蓄も用意できている。	地域を巻き込んだ避難訓練や防災訓練が望まれるとともに、避難誘導手順も夜間・日中に分け、具体的に動けるよう準備が期待される。

事業者名：グループホームあじさい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ミーティング、申し送りで理念を振り返る時間を設けケアに取り組んでいる。居室での排泄時はドアやカーテンを閉める。入室の際は本人に声掛けし入室している。	声掛けの方法やプライバシー保護・プライドの尊重などの学習会を開き研修するとともに、随時管理者が指導をしている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者に合わせて声掛けし、難聴の方には筆談で説明し意思表示が困難な方には、表情を読み取ったり強制しないように支援を行っている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、部屋でテレビを観られたり、休まれたり又体調不良の場合など食事時間をずらして様子を見たりと身体状況に合わせて支援を行っている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣は、基本的に本人の希望で決めているが、自分で出来ない方には日頃の好みを考えながら支援している。理美容等は本人の馴染みの店を優先しているが個々の状況に応じて訪問利用している。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の状況により普通、キザミ、ミキサー食、ペースト食にしている。テーブルに花を飾り楽しく食事出来るよう雰囲気づくりに努めている。誕生日会には、いなり寿司や赤飯にしたりとメニューの工夫をしている。	食べたいもの、季節の食材をもとに献立をつくり、食べやすいように調理をしている。五感に刺激を与えるよう香りや彩・味付け・調理の音などを大切にしている。職員と楽しくお話をしながら食事をしている。また、テーブル拭きや準備など、それぞれの利用者ができることをしている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分量等はバイタル表に記録し全職員が情報を共有している。カロリー面は当医院に相談している。調理面は利用者の好みに応じて作っている。摂取しやすいようにミキサー、キザミ、粥食で対応している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きの声掛けを行い個々の力に応じて手伝いをしている。利用者によっては、ガーゼ、スポンジを使用している。就寝前は義歯の洗浄を行いポリドント液の入ったケースに保管している。		

事業者名：グループホームあじさい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレは各居室に設置。排泄チェック表を利用し尿意のない方もパターンに合わせてトイレ誘導を行い夜間オムツ使用者も日中は、布パンツ、リハビリパンツを使用。必ずトイレ誘導し快適な排泄の支援を心掛けている。	出来るだけオムツに頼らない、自立した排泄に心掛けている。パターンに合わせて声掛け誘導や布パンツの利用など本人が心地よく過ごせる支援をしている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄時はバイタル表に記入。オムツ使用者の方もトイレで排泄できるように支援している。牛乳、季節の果物やイモ類を使ったおやつを出したり、状況により薬を服用する方もいる。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日声掛けし、入浴の希望を取っている。尿、便秘禁の場合はその都度対応している。入浴拒否、入浴不可の方には、無理強いしないようにし清拭、足浴の支援をしている。夜間入浴も対応している。	希望に応じて毎日入浴している人もおり、夜間入浴も可能である。入浴拒否者に対しても声掛けを工夫し場合によっては部分浴を行っている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	外出、受診、入浴日などは、なるべく早めの就寝を促し、その日の身体状況に応じて午睡を勧めている。又眠剤を飲まれている方は、夜間のトイレ誘導、日中の活動の妨げになっていないか確認している		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員がいつでも内容把握出来る様処方箋をファイル作成している。服薬の変更、中止は申し送り時職員に伝えている。誤薬等ない様チェック表作成し服薬時にチェックしている		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日課のリハビリ体操の時間帯は、詩吟で鍛えたのどを披露する場となっている又花の好きな方はご自分でレイアウトを楽しんだり職員が生けた花の感想を言っている。嗜好品の購入依頼は家族に連絡している		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	キーバンソンが送迎し同年齢の高齢者がいる家へ昔話を語りに出かける。又、敷地内の有料老人ホームに入所されている知人を訪ねることもある	以前と比べ高齢化が進み、身体機能の低下も見られ、外に出る機会が少なくなってきている。敷地内の隣接施設へ友人に会いに行く方もいる。	短時間でも戸外に出る機会を日常的につくり、自然を五感で感じ、ストレス発散ができるような配慮が期待される。

事業者名：グループホームあじさい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>基本的には、家族よりお金を預かり、買い物、理美容代など支払出納帳に記入、家族訪問時残金の確認サイン、捺印を頂いている。職員が事務室で管理している。</p>		
51		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>希望時は家族等電話したり、直筆の手紙を家族へ郵送している。利用者に届いた手紙、小包などのお礼を職員が連絡、本人と話ができるよう支援している。</p>		
52	(19)	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>対面式の台所をしている。料理の音、匂いや季節ごとの菖蒲湯、ゆず湯などで工夫している。玄関、テーブル等に花を飾ったり、掲示板へ月ごとの手作り作品を展示し季節感を出している。節句には人形等飾るなど季節行事も取り入れている。</p>	<p>季節の花や手作りの作品を飾り、心地よい空間となっている。ゆったりとくつろぎ、調理をしている姿や音や香りなどが、身近に感じられ、家庭的な雰囲気である。</p>	
53		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>玄関外にベンチを置き、花壇に植えた花を見たり外気浴をしたり、一人で過ごしたり、仲の良い入居者同士がゆっくりくつろげるスペースがある。又ホールにソファ、小さいテーブルを置いている。</p>		
54	(20)	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>自宅で使用していた寝具、テレビ、ラジオ、椅子、小物を使用している又好物の黒砂糖を常備し食する事を楽しみにしている。朝夕の神棚に参拝する習慣ある方には職員手作りの神棚を飾っている</p>	<p>個性や興味のあることなどを取り入れた、その人らしい部屋のつくりで、職員の努力の跡がみられる。また、好きなものや馴染みの小物を用意し、楽しく落ち着いて過ごせるよう工夫している。</p>	
55		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>居室からホールへの移動距離が長い為自立歩行する利用者の意向により居室変更の調整をした。他利用者の居室にて排泄を繰り返す利用者の居室ドアに表札とリボンをつけた。</p>		